



学校だより

# 錦城の詩

平成25年(2013年)

3月22日(第20号)

明石市立錦城中学校

平成24年度ありがとうございました

校長 荒井 拓

先日、3月12日(火)に本校「第66回卒業証書授与式」を挙行いたしました。うららかな春の日差しの中、素晴らしい感動的な卒業式となったと思います。改めて、ご来賓の方々、地域の方々、保護者の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。71名の卒業生の堂々とした姿に頼もしさを感じたとともに彼等の前途に幸多かれと願うものです。

昨年4月に着任以来、早くも3学期修了式。丁度、一周回ってきました。久しぶりの学校現場であったため、何かとモタモタしてしまい、生徒や保護者、地域の方々そして職員にも迷惑をかけてしまった事が多々あったと反省しています。けれども、私自身は「学校ってやっぱりいなあ」と幾度も幾度も思わせていただき、感謝しています。

3月15日の学校関係者評価委員会において、学校内部評価のデータを元に、90分程度の時間をかけ、本校の現状や分析、次年度への課題や改善策などを話しあっていただきました。まだまだ組織的にも成熟しているとは言えない評価委員会ですが、様々なご意見をいただくことが出来、意義深いものであったと考えています。

少しその内容を記させていただきます。

## ○道徳教育について

学習指導要領で定められている「道徳の時間」週1コマ、年間35時間は確保できているが、授業内容の工夫がまだまだ必要。勿論、道徳教育は教育活動全体を通じて推進していくべきものであるが、「道徳の時間」は道徳実践力を付ける補充・深化・統合の要となる時間であり、生徒の心に響く資料の開発や展開の研究が不可欠。今後の錦中の大きな課題である。

## ○家庭学習の定着と習慣化について

家庭学習の量や質を測ることは難しい。しかし、高度情報化社会の真ただ中にいる子どもたちには、情報の選択力や自学自習力を身に付けさせなければならない。自ら自然と机に向かい、知を楽しむ姿勢をつけたい。もっともっと勉強させよう。

## ○地域の高齢者との交流について

地域には多くの高齢者がおり、核家族化が進む現時代において中学生との交流は大事である。防災減災の観点からも何か工夫はできないものか。明石市の教育理念である「地域ぐるみで人を育てる」ということから重要なテーマであるが、教育課程が満杯の状況。あかね

が丘学園のガイドボランティアグループによる「ふるさと探検」やあかねが丘学園OBによる錦城同窓苑での子ども達との玉葱づくりやサツマイモづくりなど継続していきたい。

## ○安全管理(不審者対応)について

3月に入り校区内(主に上ノ丸や明石公園近辺)で声掛け事案が複数発生。月照寺や朝霧寮、弓道場といったところの道案内を乞うもので、中学生の親切心に付け込もうとするもの。市教委子ども安全係や警察へ届けると同時に、生徒に登下校時の公園内通行禁止、職員によるパトロールを実施した。県警生活安全特別捜査隊からも来校され、情報提供と巡回強化等を依頼した。子どもに自己防衛能力も身に付ける必要性もある。

## ○その他として

・内部評価のためのアンケートの設問設定や集約、公表方法により工夫が必要。情報の発信のPRなどを積極的に。

・幼小中の連携の在り方を来年度も引き続き発展させていってほしい。

・生徒数、学級減にともなう教職員定数減による職員の負担増加への対策はないものか。など色々なご意見をいただきました。来年度の学校運営に少しでも活かしていきたいと思えます。

なお、1学期7月12日実施の生徒アンケートに引き続き、同様の質問設定で2学期11月28日に実施した生徒アンケート結果や行事などでの保護者アンケート結果などもHPに掲載しておりますので、是非、ご覧ください。

先週、春の嵐が去ってから気温がぐっと上昇し、それに呼応するかのように中庭の木々のつぼみがみるみるみ色づいてきました。春休みは短い休業日ですが「新しい」という様々なことに出会える期待感にワクワクできる期間です。学校は、平成25年度の良いスタートに向けて、準備に一生懸命です。PTAの方も18日(月)午後7時から相当の時間をかけて、本部役員の引き継ぎが行われました。新旧役員の皆様、有難うございました。

## ◎錦城大橋より中庭学習池を臨む

